



亀っ子だより

第4号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2019年6月5日

手前味噌ですが・・・

5月30日（水）教育長の鈴川先生はじめ半田市教育委員会の方々、愛知県と半田市の指導主事の先生方をお招きして、学校の様子を見てもらいました。（学校訪問と呼んでいます）すべての学級の授業を見てもらった後、鈴川先生から「授業の様子を見ていて、先生と子どもとの関係がとてもよいと感じました」とほめていただきました。私が見ている中でも、先生方と子どもとが響き合いながら授業を進めていると感じました。先生が一方的に教えているのではなく、子どもたちがばらばらなのではなく、先生が言ったことに子どもの心が反応し、一人の子どもの発言にみんなが心を寄せ、学習が進んでいる手応えを感じました。

この日の授業のために先生方はとても頑張りました。中でも1時間の授業をしっかり見ていただいたのは、3年1組と6年2組です。今日の授業のために4月当初から会議を重ね、職員みんなが知恵を出し合って授業計画を練り、安井先生と山口先生がそれを形にして授業を行いました。安井先生の授業は、午後から行われた協議の中で、指導主事の先生も亀崎小の先生も絶賛していました。（私は、鈴川先生方を案内していて、後半しか見ていないのでとても残念でした）山口先生はこの日の授業が終わって開口一番「授業って、ほんと楽しいっすね」と言っていました。私にとってこの言葉が聞けたことが、何よりもうれしいことでした。安井先生・山口先生の授業、そして一人一人の先生の授業を通して、学びの多い一日となりました。そして、亀崎小学校職員一同が一つにまとまった心地よさを感じた一日でもありました。私は、亀崎小学校職員の皆さんに出会えて本当によかったと思いました。

5月20日の朝会での校長の話、その後考えたこと

5月20日（月）朝会で、次のような話を子どもたちにしました。
「前回の朝会で、みんなが集まるこのようなときには静かに集まりましょうという話をしました。今日の様子を見てみると、とても静かに集まることができていて素晴らしいと思っています。今日はもう一つみなさんに、こうして集まったときに大切にしてほしいこととお話しします。

少し前の話になりますが、4月の学校公開日で、2年生が『ふきのとう』をみんなが音読する授業を行っていました。その時、担任の先生が『聞くときは、耳と目と心で聞きましょう』と話をしていました。私も2年生の先生に大賛成だと思い、話に耳を傾けていました。誰かの話を聞くときには、話を耳で聞くだけでなく、話をする人を見て、心も向けて聞くことがいつでもどこでもできるようにしてほしいと思っています。でも、校長先生には皆さんの心は見えません。だから、教室を回って、先生をしっかり見ているか、話をしている人をしっかり見ているか、見て回ろうと思っています。耳と目と心で話を聞く習慣を身につけてください。その習慣が、皆さんの力を伸ばし、友達関係を良いものにし、周りの人から信頼される人になっていくものと思っています。そして、皆さんの命を守ることにつながる時があります。だから、みんなが集まったとき、静かにすること、話を聞くことが大切です。」

私は、この話をした後でふと思いました。「私は、家で妻の話を目で聞いているだろうか。新聞を読みながら聞いていないのだろうか。教頭先生の話を目で聞いているのだろうか。パソコンを打ちながら、文書を読みながら聞いていないだろうか」と。

いつもちゃんとできているとはとても言えないと反省しました。これからは、新聞を読みたくても、何か仕事をしていても手を止めて、話をしてくれる人を見ながら話を聞くようにしようと思いました。

保護者の皆さんは、子どもの話、奥さんの話、旦那さんの話を目で聞いていますか。心を寄せて話を聞いていますか。まさか、スマホを触りながら聞いていたりはしませんよね…。

朝会にて

5月20日(月)朝会がありました。校長の話が終わり、清掃について松永先生から話がありました。その時、プロジェクターを使用したので、暗幕を閉めなくてはなりませんでした。私の後ろの体育館前扉も閉めました。松永先生の話が終わった後、今度はカーテンを開けて会場を明るくしました。私は、体育館前扉も開けようと思いました。ところが、扉を開けるのに少し時間がかかってしまいました。しかも、「ギー」という大きな音もしました。司会をしていた児童会の子は、みんなが待つ中、私が扉を開けきるのを待って、次の指示を出してくれました。ほんのわずかな間でしたが、司会の人機転に、私はとても助かりました。感謝、感謝！

草刈りを手伝ってくれた女の子たち

少し前ですが、一舎の南側の草を刈っていました。すると、学校に遊びに来た女の子3人がやってきて「お手伝いすることはありますか」と私に話しかけてきました。「それじゃあ、刈った草を草置き場においてきてくれる」とお願いしました。女の子たちは、快くバケツに入れた刈った草を草置き場に持って行ってくれました。戻ってきた女の子たちと話しながら草刈りを続けていると、「電話です」と教頭先生が呼びに来ました。もう暗くなりかけていたので、「お手伝いはここまででいいです。気をつけて帰ってね」と言い残し、職員室に戻りました。電話が終わり後片付けをしようと戻ってみると、私が刈った草が全部バケツの中に片付けられていました。女の子たちは、あれからここまでやってくれたのかととても感心しました。私にとって、とてもうれしい出来事でした。

♣ 子育てアラカルト ♣

[さんまの子育て]

間違いは直した方がいい。でも、指摘してもすぐに直るものばかりではないだろう。人にはプライドというものがある。高飛車に指摘されてはかえって直そうとする意欲がなくなる。

さんまの子育てを心がけてはどうだろう。

①まをおく。②まちがいを許す。③まわり道を認める。

(ある教育者の独り言)

[心に刻む言葉]

「人生は道路のようなものだ。一番の近道は、たいてい一番悪い道だ。」

—フランシス ベーコン—

[エピソード]

子どもの頃、空にかかった虹を「取ってくる」と自宅の裏山に登ろうとした。それを見たお母親が「ここに入れておいで」とビニール袋を渡してくれた。のびのびと育ててもらった母親に、今でも感謝している。

(ある印刷会社社長の自叙伝より)